

題材名 家族と住まいのかかわりを考えよう

- 目標
- ・生活行為と住空間の関係を理解する。
 - ・家族の暮らし方によって、住み方が異なることがわかる。

学習項目	学習活動・内容	教師の支援	ソフトウェアの利用等
1 生活行為と住空間の関係を 知る。	○住まいの図を見ながら、どこで何をやるのか、考える。 入浴、洗面、排せつ、調理、洗濯、アイロンがけ、裁縫、食事、休養、だんらん、就寝、仕事、勉強、休養、出入り、通行、収納など ○生活行為と住空間の関係について考える。 ・生理・衛生の空間、・家事の空間、・家族共有の空間、 ・個人の空間、・その他の空間	・一般的な住まいの図を見せ、玄関から入って、それぞれの部屋を通っているつもりになって、どんな行為を行っているのか、発表させる。 ・どこで何をすればいいのか、住まいの図を見ながら考えさせる。 ・目的に応じて、住空間が分かれていることを確認する。	・一般的な住まいの3D図を見せて興味を持たせる。 ・発表している生徒に合わせて、図を提示する。ウォークスルー(※)機能を使って、歩いてみる。 ・必要ならば、図をプリントアウトして使用する。
2 家族が暮らしやすい住まい方の工夫を考える。	○想定家族を設定し、どういう住まい方がいいか、間取りを考える。	・高齢者、乳幼児、障害者等にも配慮した間取りになるように、想定家族をいくつか提示する。班で想定した家族について、間取りを選ばせ、暮らし方を考えさせる。 ・暮らし方に合わせて、簡単な家具の配置をさせる。	・サンプルの間取りから、1つ間取りを選び、作成する。
3 快適な住まい方になっているか検討する。	○想定家族が暮らしやすい住まい方になっているか、発表し、他の班と検討しあう。	・住まいの基本的な機能を果たしているとともに、だんらんの場所、プライバシーの配慮、高齢者、乳幼児、障害者への配慮ができているか考えさせる。	・簡単な家具の配置をする。 ・ウォークスルー機能を使って、中を3Dで歩いてみてもよい。 ・発展的に、新規作成モードで、始めから間取りを作成することもできる。